

お元気ですか

2025年3月 206号



発行所 (福)横浜市社会福祉協議会
障害者支援センター
〒231-8482 横浜市中区桜木町1丁目1番地
横浜市健康福祉総合センター9階
☎045-681-1211(代表) ☎045-680-1550
🌐https://www.yokohamashakyo.jp/siencenter/
編集発行人 内嶋 順一

横浜市 障害者支援センター

検索

「R7感謝の集い」
「重心調査」
「連絡協共催研修」
「写真展」



地域での見守りの輪を広げていく 「障害者後見の支援室すまいる港南」の取り組み

障害者後見の支援室では、地域の方たちの協力を得ながら、登録者一人一人について、あんしんキーパー(※)をはじめとした地域での見守りの輪を広げていく方法を検討し、その実現に向けた取り組みを進めています。

※地域住民などの立場から障害のある人の日常をゆるやかに見守るボランティア

個人の避難場所シートの活用

『障害者後見の支援室すまいる港南(以下、すまいる港南)』では、『災害』を切り口にしながら、地域とのつながりを登録者や家族と一緒に考え始めています。

ひ さん ば し ょ う せ ん じ ゃ ん い か こ
避難場所(優先順位)を書き込みましょう! 名前

☐在宅避難(家にいる)

☐分散避難(親戚・知人・祖父母宅へ行く)

☐避難所に行く

①いっとき避難所(町内会・自治会等)

②指定避難所(小学校・中学校)

③広域避難所(公園・広い場所)

★緊急連絡先★
誰に連絡しますか?
TEL
★外出中に災害にあった場合の
避難場所はどこ?

〒 番 組 目 障害者後見の支援室 すまいる港南

災害の備えを一緒に考えるためにすまいる港南で作成したシート



地域での見守りの輪のイメージ



地域とのつながりを考えていくきっかけを考える
すまいる港南のスタッフたち

登録者や家族とシートを一緒に作成しながら「地震が起きたとき、避難場所の〇〇小学校と一緒に逃げてくれる人がいますか?」と尋ねると、「近所の〇〇さんかな」と名前が出てきました。また、他の登録者に「家まで急な坂道だけど、大雨が降って避難するとき、一人で大丈夫ですか?」と尋ねると「一緒に逃げてくれる人がいるといいな」という思いを聞くことができました。

地域に広げる土台づくり

地域の状況を知るには、地域に出ていくのが一番と考え、地域ケアプラザにも足を運びました。すまいる港南の取り組みを伝え、地域の状況を教えていただく中で、お互いの役割を理解し、相談し合える関係ができてきました。



地域ケアプラザにこれからも伺います!
すまいる港南の久保田さんと福土さん(右)

廣澤さんの『見守りの輪』づくり

弟さんと二人暮らしをしている廣澤さん。すまいる港南では、もし一人のときに何かが起きたら、助けを呼べるだろうかと心配していました。

2024年4月、支援室での面談で、地震があった時に、近所で声をかけてくれる人がいるかと尋ねたところ、声をかけてくれる人がいた方がよいとの希望があらわれました。その後、一緒に暮らす弟さんにも確認し、見守りの輪づくりが始まりました。



笑顔が素敵な皆さん
(左から)大野さん・廣澤さん・本山さん

本山さんは「お祭りなどで会ったときには、声をかけあえる関係を作っていければと思います」と、荒谷さんは「明るく受け答えしている姿を見て、廣澤さんの持つ力を感じられました」と話されました。

その後の面談で、廣澤さんが、3人の写真を自分の部屋に飾っていること、9月に安否確認訓練にも参加し、玄関先に黄色のタオルを出したことを報告してくれました。「みんなと会えてうれしかった。また会いたい」と話しています。

廣澤さんの見守りの輪づくりは始まったばかりです。廣澤さんと大野さん、本山さんとの関係が少しずつ育まれるよう、すまいる港南も支えていきます。

この制度を地域に広げる役割を担う『担当職員』の久保田さんは、まず、廣澤さんの住む地域を担当している港南中央地域ケアプラザの荒谷さん(地域活動交流コーディネーター)に相談をしました。荒谷さんから地域の方に相談いただき、大野さん(町内会会長)と本山さん(民生委員)をご紹介いただきました。

7月には廣澤さんとの顔合わせを行いました。廣澤さんが、初めて会う皆さんに日ごろの生活の様子を伝えたり、大野さんと本山さんから地域で行う安否確認訓練へのお誘いがあったりと、和やかな雰囲気では進みました。会の最後に、お互い顔を忘れないようにと、廣澤さんと3人で写真撮影も行いました。



顔合わせを振り返る
本山さんと荒谷さん(左)



支援室での面談
廣澤さんとすまいる港南の飯吉さん(左)

あんしんキーパーの候補者がいない場合 ケアプラザを通して地域とつながるための進め方

- | | |
|---|---|
| ①地域で知り合いを見つけたいと希望を聞いた | |
| ②どんな方になって欲しいか確認する
例えば、民生委員・自治会長・近隣の方など | |
| ③居住地域管轄の地域ケアプラザ、
地域活動交流コーディネーターへ相談する | |
| ◎すでに訪問している | ×まだ訪問していない |
| ↓ | ⑦CPへ電話連絡
⑧CPと日程調整
⑨CPでガイドライン・制度説明 |
| ④本人・家族の氏名・住所など、
地域ケアプラザへ伝えてよいが確認する | |
| ⑤地域ケアプラザより候補者を教えてもらう | |
| ⑥本人・家族・地域CP・候補者の方と場所・日程調整 | |
| ⑦顔合わせをする | |

進捗がわかるように
流れを見える化しています

さらなる広がりを

地域ケアプラザを通して地域とつながる登録者が少しずつ増えています。そこで、登録者と地域の人とのつながりの流れを表にまとめ、すまいる港南の事務所に掲示しました。

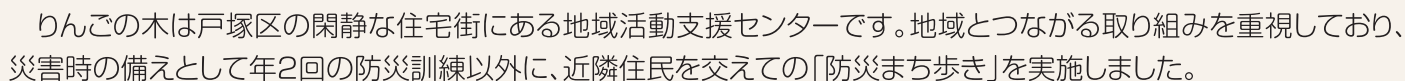
久保田さんは「登録者だけでなく、自分自身も地域に知り合いが増え、取り組みを進めていくことが楽しくなってきました」と話しています。見守りの輪を広げていくすまいる港南の取り組みは、これからも続いていきます。

障害者後見の支援室では、地域での見守りの輪づくりのほかにも、登録者が願う地域での暮らしが実現できる方法を一緒に考えていきます。詳しくはこちらをご覧ください。





防災まち歩き

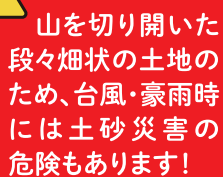
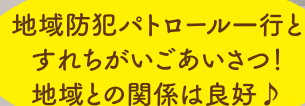


10月16日に利用者、職員、同じ建物を共有する訪問看護ステーション、自治会の方も含む総勢19名が参加して、500mほど離れた避難場所の小学校まで、災害時に危険になる場所を確認しながら歩きました。

まち歩きマップ



地域の方をお誘いしたのは、大きな災害時は最初の一週間は地域力が軸になりますし、被災後の支援が落ち着いてからも地域の力が中心の生活になると思うからです。



大きな地震で
倒れてきます



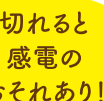
液状化で
せり上がります



かわらが
落ちてきます！
古い家は
崩壊のキケンあり！



豪雨時は急速に水がたまり、あふれ、水害の危険箇所になります。



よく見る風景

ハザードマップは持っているだけ、眺めるだけでなく危険個所を確認しながら実際に歩くことが大切です！

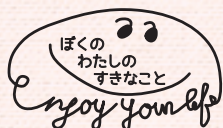


今回の案内役「玄海 (Genkai)」の
代表橋本さん

実施を振り返って 宮下所長のお話

「避難時には近隣とのつながりがなによりも大切と感じました。事業所の駐車所を開放してのお祭りを開く等で、普段からの地域の方々との交流を重ねていきたい」

後日談で宮下所長にお聞きした話では「りんごの木の防災意識の高さは歴代の所長から引き継がれている大切な習慣の一つ」「メンバーが災害への心の準備ができているのが何よりの備え」とのことでした。そして最後に「りんごの木では毎週金曜日の帰りのお見送りの言葉は、『地震に気をつけて! 生きのびよう!』です」と力強く話してくれました。



ぼくの わたしの すきなこと

橘木さんは、平日は福祉作業所に通い、ポチ袋の紙貼り、マスキングテープの袋詰め、落ち葉掃き、草取り等の仕事をしています。

午後4時半、仕事から自宅に帰ると、まずお風呂掃除や洗濯ものたたみをします。それが終わると、やっと大好きなイラストを描く時間に。

描き始めたのは、小学校4年生の頃から。好きだったアニメのキャラクターを描くようになったのがきっかけです。まわりから「うまい」と褒められ、どんどん上達しました。

今では、「ノルマはないけど、毎日描けるだけ描く、20枚は描きたい」と意欲満々です。描くイラストは、スマートフォンや、イラストレーションブックから探しますが、今一番の推しは、インターネット上で人気のキャラクターNachoneko(なちよねこ)さん。

神奈川県親の会麦の会

きつき まさや
橘木 誠弥さん

橘木さんの描き方は、トレース紙は一切使わず、見たイラストそのままを一気に描くスタイルで、線の伸びやかさが特徴です。トレースだと描いた気がしないのだから。一番難しいのは顔で、頭と首のバランスに気を遣うそうです。イラストの脇には、自作のサインも入っています。

描き溜めたたくさんのイラストは、機会があれば、多くの人に見てもらいたいとの思いもあり、ファイルに入れ毎日持ち歩いているそうです。「将来は?」と

尋ねると、「イラスト

の仕事をして

みたい」と

はにかんで

いました。



一番の推しNachoneko



ハートメイド通信

お問い合わせ

障害者支援センター ハートメイド担当

☎ 045-681-1131

※平日9:00~16:00

※冊子をご希望の際は無料で送付いたします。



ハートメイドホームページから、商品が購入できます

ハートメイドのホームページが新しくなりました。デジタルブックでカタログの商品を見て、気に入ったものがあればオーダーフォームより購入できます。

カタログにはお菓子・家庭雑貨・アクセサリなど約350点以上の商品を掲載。個人でのご購入、イベントのプチギフト、感謝の気持ちを伝えるちょっとしたプレゼントなどに最適な商品が揃っております。

障害のある方々にとって、自分たちが作った商品を購入していただくことは大きな喜びであり、仕事の励みにもなります。

カタログをご覧ください、ぜひご注文ください。(カタログについてのお問い合わせは上記連絡先へ)

●ふれあいショップみなとリニューアルオープン!

☎ 045-223-2055 定休日/月曜日・木曜日 ※雨天休業

営業時間/平日 11:30~14:30

休日祝 11:30~15:00

※営業日・営業時間は変更になることがあります。詳しくはお問い合わせください。

みなと横浜の海を一望できる臨港パークの一角にある「ふれあいショップみなと」。ガラス張りの明るい店内は20席ほどの喫茶店で、ハートメイド商品を販売するスペースもあります。

注目商品は「犬のおやつ」です。公園の芝生にワンちゃん連れの方が多く訪れることもあって売れ行き好調、大人気です。また、犬や猫など動物をモチーフにした商品や、横浜をイメージした商品なども揃っております。あたたかな日差しの休日などには愛犬と一緒に訪れてみてください。



●県立武道館でハートメイド商品を販売開始

☎ 045-542-0450

横浜市営地下鉄ブルーライン岸根公園駅に隣接する県立武道館で、ハートメイド商品を販売しています。スポーツを楽しむ際に使用頻度の高いタオルと手ぬぐいを販売しており、武道館を利用するお客様に大評判です。特にピンク・黄色・オレンジなど明るい色あいの手ぬぐいが人気とのこと。今は2商品のみ販売ですが、今後販売商品を増やしていく予定です。

武道館販売担当村山さんは、お母様が福祉関係の仕事に従事していた関係で、幼い頃に福祉事業所の自主製品に触れる機会があったそうです。「仕事を通して障害者施設の自主製品販売に携わることができて、嬉しく思います」と、おっしゃっていました。

